

令和4年産 仙南稲作情報（第4号）

令和4年7月12日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- 生育が早まり、南部平坦地帯の中生品種から、概ね幼穂形成期に達しています。
- 間断かん水により根腐れを防止しましょう。
- いもち病発生は平年並み。

1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月10日）

- ・6月前半は、低温少照傾向であったが、6月後半からは高温傾向で日照時間も多めに経過している。梅雨入りは6月15日ごろで、6月29日ごろ梅雨明けしたとみられている。7月上旬は前半は高温多照、後半は平年並みに経過した。

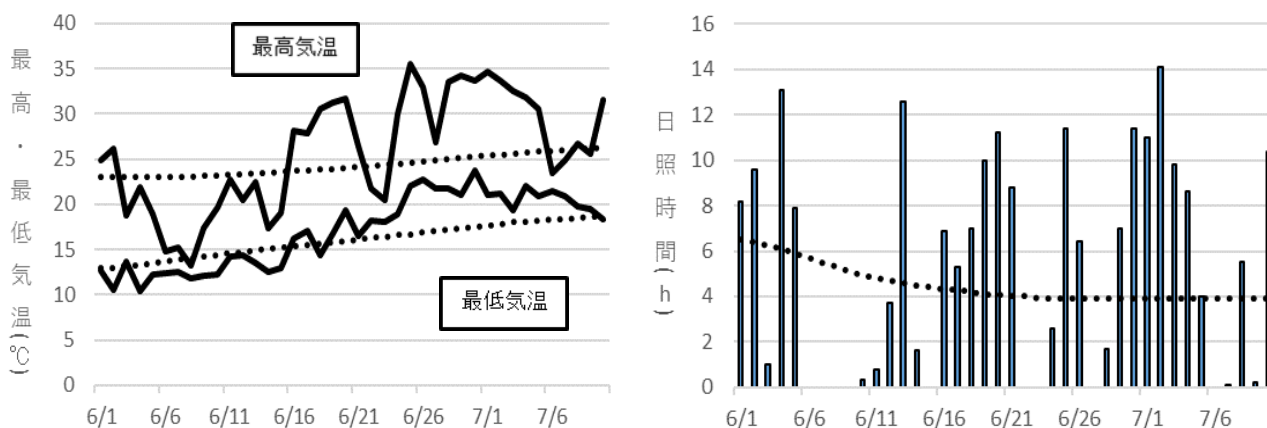


図1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月10日）

※仙台管区气象台（7/9 発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる見込みです。

2 管内の生育状況

（1）【7月11日調査結果】

生育が早まり、中生品種から幼穂形成期に到達。草丈はやや長く、茎数は茎数を概ね確保。葉数・葉色は概ね平年並み。

- ・7月上旬としては高温多照のため、全般に生育が早まっています。
- ・南部平坦の「ひとめぼれ」については、生育調査までは幼穂長が5mmを超え、「幼穂形成期」を過ぎてきていますので、一般ほ場でも「幼穂形成期」を過ぎつつあると思われます。
- ・南部平坦の「つや姫」も、幼穂長が2mmを超え概ね「幼穂形成期」に達しているとみられますが、5月下旬植えでは、幼穂長は概ね1mmで「幼穂形成期」に入るとみられます。

- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は、莖数が平年よりも多く、葉数は平年並です。幼穂長は1mmを超え「幼穂形成期」入ってくるとみられます。
- ・山間高冷の「やまのしずく」は、莖数が平年よりも多く、葉数は平年並みで進んでいます。幼穂も1mmが確認されました。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にしてください。

表1 管内の生育調査結果 (7月11日)

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			莖数			葉数			葉色			幼穂長		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(mm)	平年値	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/18	5/14	69.5	112	113	351	76	79	11.7	0.0	0.7	40.2	1.2	4.3	7.0	4.4	▲0.2
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/7	5/8	73.1	110	105	571	94	98	11.7	0.2	0.0	36.8	▲1.0	▲2.5	8.6	4.9	3.4
南部平坦平均 ひとめぼれ				5/12	5/11	71.3	111	109	461	85	88	11.7	0.1	0.4	38.5	0.1	0.9	7.8	4.7	1.6
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/23	5/20	63.7	101	100	475	93	87	10.5	▲0.0	0.1	43.1	▲1.3	▲2.1	2.5	0.2	2.1
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/4	5/4	70.6	114	113	397	88	87	11.1	▲0.3	0.2	41.5	0.3	0.3	4.1	1.8	2.3
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/13	5/15	56.1	102	92	415	119	95	10.5	▲0.3	▲1.0	42.4	1.4	2.4	2.3	0.9	0.2
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/23	5/22	55.2	104	101	539	126	106	9.4	▲0.3	▲0.6	40.4	▲5.5	▲3.1	1.9	0.0	1.9

◆平年値は前5か年(H28~R2)の平均値

※角田市「つや姫」は調査4年目のため過去3年の平均値を平年値とした。村田町「つや姫」は調査3年目のため過去2年の平均値を平年値とした。

(2) だて正夢について

- ・南部平坦の「だて正夢」は、幼穂長2mmを超え「幼穂形成期」に達しています。莖数は、前年よりも少なめですが、有効莖数が確保されています。葉色は前年よりも3ポイント弱淡くなってきています。
- ・西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長1mmを超え、「幼穂形成期」に達してきているとみられます。草丈・莖数・葉数は概ね前年並みで、葉色は前年よりも2ポイント弱淡くなっています。

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		莖数		葉数			葉色		幼穂長	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m ²)	前年比	(枚)	前年値	前年差	(GM)	前年差	(cm)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/7	5/4	77.8	108	410	97	12.0	11.5	0.5	37.2	▲2.7	9.2	4.6
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/21	5/19	66.8	98	436	94	10.3	9.8	0.5	44.8	▲1.4	3.2	3.0

3 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
出穂前日数	25日	15日	12日
幼穂長(mm)	1~2	30~40	80~100
葉耳間長(cm)	-	-10	±0

○葉色や生育ステージのほ場間差が見られます。今後は、生育状況に応じた追肥や、病虫害防除の実施が重要です。

○生育ステージは、「ほ場ごと」に異なるので、「ほ場ごと」に幼穂長を測定するなど、正確な生育ステージを把握に努めましょう。

(2)水管理

○中干し終了後は、「かん水」してから自然落水し、2～3日田面を乾かしてから「かん水」する「間断かん水」を行い、根に十分に水分と酸素を供給しましょう。

○出穂期は稲が必要とする水分が多くなります。出穂期には湛水しましょう。

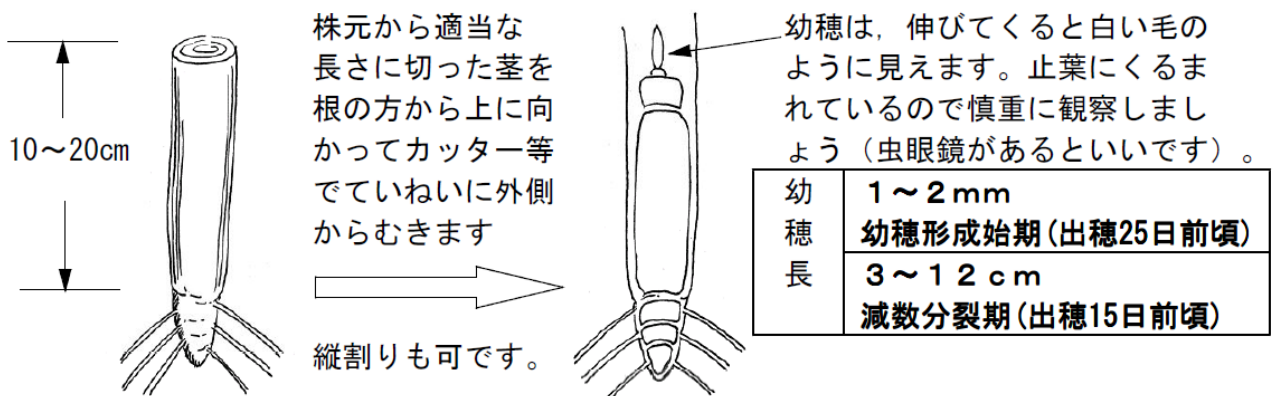
💡 倒伏が心配される復元田等では、目標茎数を確保後、落水期まで自然落水後に田面を乾かす期間を長めにとりながら、「間断かんがい」を行いましょ。根の健全化と茎の充実を図る水管理です。

(3)追 肥

□ 幼穂長を確認して、適期に追肥をしましょう。

- ・追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」又は「減数分裂期」に行いましょう。
※品種によって、追肥回数や追肥時期が異なりますので、次項を参照ください。
- ・幼穂形成期の追肥は、分けつの退化防止と1穂粒数の増加に効果的です。
しかし、追肥量が多すぎると、下位節間を伸長させ倒伏を引き起こしたり、粒数過剰となり登熟不良を招いてしまいます。
- ・減数分裂期の追肥は、登熟初期の光合成能力向上により、登熟歩合の向上や乳白粒等の低減効果が期待されます。

【幼穂長の調べ方】



株元から適当な長さに切った茎を根の方から上に向かってカッター等でいねいに外側からむきます

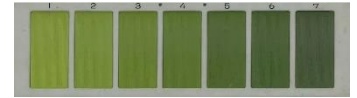
縦割りも可です。

幼穂は、伸びてくると白い毛のように見えます。止葉にくるまれているので慎重に観察しましょう（虫眼鏡があるといいです）。

幼穂長	1～2mm
	幼穂形成始期(出穂25日前頃)
幼穂長	3～12cm
	減数分裂期(出穂15日前頃)

□ 追肥の判断について

- ・葉色を測定して、葉色が目安の範囲内以下でしたら、追肥をしましょう！
- ・葉色の測定は、「葉緑素計（SPAD-502）」又は「葉色板（富士平工業の7段階表示のカラースケール）」を用います。
- ・下表の葉色板又は葉緑素計の値から追肥の判断ができます。



葉色板(単葉)と葉緑素計の関係

葉色板(単葉)	4.5		5.0			5.5		6.0			6.5				
葉緑素計	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48

※幼穂形成期における施肥判断の目安

ひとめぼれ	↔														
つや姫・まなむすめ	↔					↔									
だて正夢	↔										↔				

○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・まなむすめ	3.9~4.2	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—					出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—					出穂15~10日前 2kg/10a

※「だて正夢」の追肥について

- ・「だて正夢」の追肥は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを施用することが基本です。
- ・ただし、有効茎数の不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分でそれぞれ1kg/10aずつ施用してください。

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数(本/㎡)	390~460	380~420
葉色(SPAD値)	40~42	37~39
葉色板(単葉)	5.5~6.0	5.0

(4) 病虫害防除

① いもち病

- ・ **いもち病は平年並の発生が確認されています(7月9日)。**
- ・ **ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。**

- ・ 病虫害防除所の巡回調査で県南部で葉いもちの発生が確認されています。
- ・ 葉いもちの感染に好適な気象条件(19~25℃)が出現してきています。上位葉の葉いもちが穂いもちの発生源となるため、今後重要な時期が続きます。
- ・ 箱施用剤を使用している場合でも7月中旬以降効果が低下するため、ほ場の見回りを行い、発生が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除してください。

② 斑点米カメムシ類

□水田周辺の雑草地、農道、けい畔などの草刈りは、遅くとも7月20日までに終わるようにしましょう。

※本県の主要種であるアカスジカスミカメに対しては、幼虫の発生時期である7月半ば頃の草刈りが密度抑制に効果的です。

※稲の出穂期前後に刈取ると、カメムシ類を水田に追い込んでしまうので、刈取時期を逸さないようにしましょう。

□出穂期以降の薬剤防除

- 薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ホタルイ残草田では、1回目の防除時期を早めましょう（出穂始～穂揃期）。
- 出穂後、やむを得ず水田周辺の牧草等を刈取の場合は、刈取り後直ちに水田の薬剤防除を実施しましょう。

□雑草刈取り及び薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

□水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類が水田内に生息しています。出穂前に、水田内の雑草を防除しておきましょう！



< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ

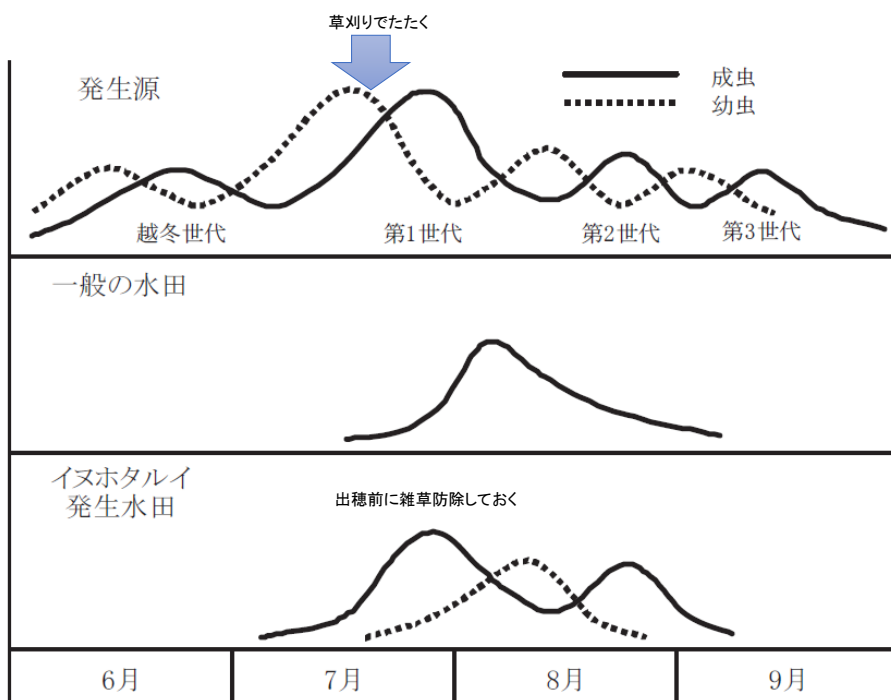
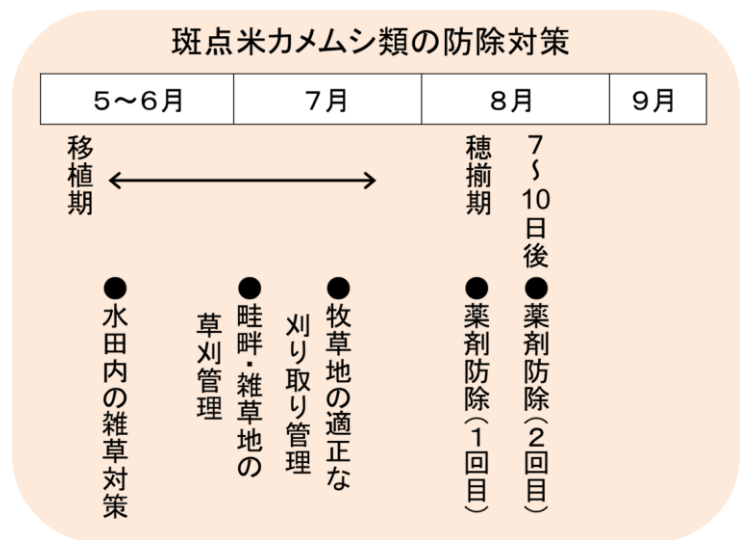


図 アカスジカスミカメの発生源及び水田における発生消長

4 直播栽培における管理のポイント

【7月11日調査結果】

- ・湛水直播栽培の普及展示ほの生育について、草丈がやや短く、葉数がやや少なくなっていますが、茎数、葉色は前年並みです。有効茎数は十分確保されています。

□ 直播きの生育調査結果

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈		茎数		葉数		葉色	
		本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/10	5/11	69.3	69.3	50.3	89	564	100	9.1	▲ 0.9	45.1	0.8

① 水 管 理

- ・中干し以降の水管理は、移植栽培と同様に「間断かん水」としますが、田面を乾かして倒伏を防止するため、乾かす期間を長めにとりましょう。

② 追 肥

- ・減数分裂期に1回、窒素成分量で10a当たり1kgの追肥を考慮しましょう。
ただし、倒伏等が懸念される場合は、追肥を控えましょう。

③病害虫防除

【葉いもち】

- ・葉いもちの早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展する場合がありますので、初発の確認が遅れないようしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセセリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では、7月中旬頃の葉色が濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生予察情報や現場の発生状況をもとに、8月上旬頃の若齢幼虫の発生最盛期に防除しましょう。

○令和4年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

- ・最新情報で農薬登録を確認してから、使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、周囲の作物を確認し、飛散防止対策を講じましょう。

○これから暑い時期を迎えます。熱中症に注意しましょう。